

新琵琶湖博物館創造基本計画にかかる行動計画 令和2年度取組結果

資料2

新琵琶湖博物館創造の7つの柱	大項目	中項目	具体的な方策	説明(必要に応じて記入)	担当	行動計画					①令和2年度重点取り組み項目(具体)	②令和2年度取組状況(R2. 9. 30現在)	③達成度(上半期)	④令和2年度下半期の取り組み(予定)	⑤問題点等	⑥備考その他	
						平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度							
1. 常設展示の再構築	琵琶湖の魅力発信し、現在とつながる展示空間	交流や対話が生まれる賑わいのある展示室地域のみなさんと創りあげる展示	各展示室リニューアル		創造室	第1期整備(C・水族)		第3期実施設計(A・B)	第3期工事(A・B)	第3期整備(A・B)	10月にA展示室、B展示室をリニューアルオープンする。	【リニューアルオープン】 ・10月10日 A展示室、B展示室	100%	-	-		
			研究成果に基づく常設展示の構築と新しい交流空間での学びの提供	常設展示・交流空間の更新	研究部	研究成果に基づいたC・水族展示室の展示作成	交流空間(第2期)への研究成果の反映方法の検討	交流空間の整備	研究成果に基づいたA・B展示室の再構築	研究成果に基づいたA・B展示室の展示作成	最新の研究成果を元に、展示資料準備、造作物製作、グラフィックや解説パネル等の原稿を準備し、グランドオープンを実現する	10月10日のグランドオープンに向けて準備を整えている	100%	-	-		
				新たな展示における恒常的な最新成果の反映	更新	C展示室「研究スタジアム」による発信					10月に更新	春に感染症対策のための休館期間があったため、10月に更新を行う	80%	-	-		
			資料の活用	資料活用	蓄積した生物標本の活用 新規飼育生物飼育開始	交流空間(第2期)用資料準備	交流空間(第2期)資料設置 資料検索システム設置 AB展示室用資料準備	AB展示室用資料準備	AB展示室資料設置	展示予定資料の情報整理、登録と展示制作	展示計画に沿った資料情報の整備と展示室グラフィック解説・キャプション等への反映	100%	上半期で完了	-			
			運営体制の確立	展示	運営体制の検証	運営体制の修正	運営体制の改善	運営体制検討	完了								
2. 交流空間・交流機能の再構築	見える・伝わる・広がる交流空間・交流機能	おとなも楽しめる仕掛け・プログラムを充実 展示室や交流空間で来館者に見える交流をする 見える・伝わる・広がる参加と交流			創造室	第2期実施設計	第2期工事	第2期整備	完了								
				交流		運営体制検討	運営体制の検証										
			樹冠トレイルで博物館から琵琶湖屋外フィールドへ誘う 琵琶湖を感じる・体験する交流	樹冠トレイル	展示・交流	博物館周辺散策マップ検討	博物館周辺散策マップ作成	ガイドブックの検証	完了								
			学校・一般団体向けの屋内昼食場所	団体用屋内昼食スペース	創造室	第2期実施設計	第2期工事	第2期整備／運用開始	完了								
			博物館の活動に参加しやすい仕組みづくり	はしかけ制度の充実	担当学芸職員を増やしグループを多様化	交流	学芸職員の6割以上	学芸職員の7割以上	学芸職員の8割以上	担当学芸職員を増やしグループを多様化	はしかけ制度の充実・発展	新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた活動の充実、発展	活動に関するルールを設定済み。ICTを活用した活動の推奨等。	80%	新しい生活様式に対応した活動の提案	会員が多様化したことによるITリテラシーの格差	
				フィールドレポーター制度の新展開	ICTを活用したレポート機会の充実でレポーターのスキル向上	交流	地域情報システムの設置(C展示室)	地域情報システムを活かしたレポート体制の構築	ウェブの地図情報の活用により、精密な調査結果を作成								
地域環境交流室の運営	会議やワークショップ・発表に使える空間の提供	交流		別館の運営要領を策定	別館の利用募集開始	別館の利用の実績にもとづいた改良											
教員用ガイドツールの作成		交流	教員用ガイド2種(試作版)を作成	試作版ガイドの提供と検証	2期リニューアル成果を反映したガイドを作成	教員用ガイド2版の検証・改善	2版の改善と3期リニューアルの反映	第3期リニューアルを反映した展示ガイドの作成	試作ガイド作成に向けての情報収集。	100%	試作ガイドの提供と検証を行う。	-					







新琵琶湖博物館創造の7つの柱	大項目	中項目	具体的な方策	説明(必要に応じて記入)	担当	行動計画					①令和2年度重点取り組み項目(具体)	②令和2年度取組状況(R2. 9. 30現在)	③達成度(上半期)	④令和2年度下半期の取り組み(予定)	⑤問題点等	⑥備考その他		
						平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度								
アクセスの向上	料金体系の検討		旅行関係機関に働きかけ		広報営業課	びわこビクターズビューローのインバウンド部会と情報共有	博物館の外国語資料を周辺宿泊施設(部会メンバー)に設置	海外旅行博への資料の提供、海外旅行代理店招請事業への参加								新型コロナウイルス感染状況を注視しながら対応		
			利用しやすい料金体系を検討する		広報営業課総務課	メンバーシップ制度の導入 年間観覧券制度の改正(27年度実施)	キャンパスメンバーズ制度の導入 現行料金体系の検証		リニューアル後の料金体系の検討	リニューアル後の料金確定							-	
	バスの増便		広報営業課	バス会社との情報共有	バス会社と利用促進策検討	利用促進イベント(リニューアルイベント等でのバスの活用)	増便に向けた協議継続	増便に向けた協議継続								新型コロナウイルス感染状況を注視しながら対応		
	湖上交通		広報営業課	お盆期間の臨時遊覧船(琵琶湖汽船)を博物館来館者へPR	臨時遊覧船の継続・増便を要請/PR協力	利用促進イベント(リニューアルイベント等での船舶の活用)	大津港他々丸半島港便の運航の要請	琵琶湖汽船との連携								新型コロナウイルス感染状況を注視しながら対応		
6. 資料を利用しやすい博物館への進化と飼育生物の計画的繁殖	資料活用の促進	重要なコレクションの活用	漁撈用具コレクション国登録		資料活用	文化庁による全点調査開始	琵琶湖漁撈用具の国登録	ギャラリー展(春休み)	B展示室での展示準備	B展示リニューアル	琵琶湖の漁撈用具・船大工用具の多様性を伝える展示の制作。漁具の形状・使用方法をわかりやすく伝える展示方法の工夫。	当該資料を含む展示室全体の施工が完了した。	95%	オープン後の広報対応、研究成果の発信とリンクさせた展示の運用を図る	-			
			古文書等の計画的公開			近江水産図譜を紹介する論文の公表	トピック展示	各古文書整備	目録作成と公開	B展示リニューアル	B展示室に館蔵資料の複製や画像を展示する。また、館蔵品紹介コーナーを設け、継続して使用できる古文書等の公開の場とする。	館蔵資料を含む展示室全体の施工が完了し、館蔵品紹介コーナーでの第1回展示を完成させた。	90%	館蔵品紹介コーナーにて、第2回以降も、B展示室の展示内容や館蔵資料の研究成果と連動した資料展示を企画・実施する。	-			
		寄贈コレクションの公開促進	寄贈されたコレクションの公開			標本・資料の整理			橋本鉄男文庫公開 伊谷純一郎文庫公開	布藤コレクション目録作成 橋本忠太郎コレクション目録作成	・布藤コレクションの整理、登録 ・コケ植物中心にデータベース化し、公開する(目録作成)	・2,700点の整理・登録した ・藓類は全て同定整理済み、現在苔類の同定作業中、コケ植物全体の70%は整理終了(DBIには未登録)	90% 70%	・残り53箱の標本を整理・登録。全データをアップロードし公開する予定 ・同定整理したデータをDBIに流し込み、その後公開する	・データベースフレームの構築			
		写真資料の継続的保存と公開の促進	フォトCDから媒体の乗り換え 大橋コレクションの作成と公開				フォトCDデータの媒体変換開始		完了									
		クラウド型資料データベースへ移行		汎用システム移行でセキュリティと発信力を向上			移行準備(仕様確定)	システム移行	ウェブ上の収蔵品データ公開ページの再構築と公開	完了								
	飼育生物の計画的な繁殖	新たな飼育生物の飼育技術の確立	バイカルアザラシの繁殖	発情周期を把握し、飼育管理を調整	バイカルアザラシの安定的飼育体制確立	バイカルアザラシの発情周期の確認	発情周期コントロールのための水温調整	前年度を反映した水温調整および発情周期コントロール	新規個体の入手検討	国内あるいはバイカル湖からの繁殖対象となる新規個体導入	国外からの新規個体導入がコロナ禍により見合わせ中	80%	調整継続	交通網の回復と防疫体制の確立後の見直し				
			カヤネズミの繁殖管理	管理計画を策定し、過剰な繁殖を抑制し健全な個体数を維持	防疫体制の確立・カヤネズミの繁殖	繁殖管理計画の策定	繁殖制限開始	計画的繁殖開始	計画的繁殖の再検討	繁殖コントロールによる展示個体の維持	計画的繁殖実行中	80%	繁殖不可の場合、新規個体導入予定	当館飼育個体の高齢化				
		日本産希少淡水魚の継続的な飼育	個体数減少種の入手と遺伝的な多様性の確保	他の施設との連携を強化し、資料交換や共同飼育	資料提供協力機関と入手が必要な種のリスト化	ネコギギの飼育繁殖事業に参加	ネコギギ以外の入手必要種の優先順位確定	交渉開始・順次入手	他機関との連携強化、入手継続。水族企画展・企画展を通じて普及啓発活動の実施	他機関からの新規個体の導入、展示を通じた普及啓発活動	一部の種について導入が完了、新型コロナにより開催の遅れた企画展の準備	80%	企画展の開催・運営、残りの種について導入	水族企画展は新型コロナにより開催中止				
			琵琶湖地域の「湖と人間」の関係変遷を探る総合的な研究の	専門、共同、総合研究や外部資金を組み	(総合研究の課題)琵琶湖地域の自然および自然観の通時的変遷に関する研究	研究報告会での中間報告	研究成果の整理	成果をまとめた本の編集	成果をまとめた本の発行とリニューアル展示への反映	B展示リニューアルに反映	研究成果を反映させた展示について、展示資料、造作物製作、グラフィックや解説パネル等の原稿を準備し、グランドオープンを実現する。	10月10日のグランドオープンに向けて準備を整えている	100%		-			

新琵琶湖博物館創造の7つの柱	大項目	中項目	具体的な方策	説明(必要に応じて記入)	担当	行動計画											
						平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	①令和2年度重点取り組み項目(具体)	②令和2年度取組状況(R2. 9. 30現在)	③達成度(上半期)	④令和2年度下半期の取り組み(予定)	⑤問題点等	⑥備考その他	
7. 「湖と人間」の関係を考える研究の推進	琵琶湖の価値の発見につながる研究強化	「古代湖」としての琵琶湖の価値を探る比較研究 ・湖や固有種の成立 ・人の暮らしと生物の営み	推進	合わせた研究	(総合研究の課題) 過去から現在までの琵琶湖淀川水系の自然と人の暮らしの変遷に関する研究	研究部	領域会議での新たな研究課題の検討	既存研究や資料の所在確認	具体的な研究計画の作成 総合研究の申請	総合研究の開始	総合研究の推進	各分野の既存研究成果の集約と関連の検討	時間情報解析ソフトへの既存情報の入力	75%	新型コロナウイルス感染拡大のため、上半期の研究会は中止した。下半期にオンライン等も含めた研究会を検討中。	—	
			協賛連携機関との共同研究①古代湖	バイカル博物館(ロシア)、オフリド水生生物研究所(マケドニア)との連携	20周年記念シンポジウムおよび特別研究セミナーの開催	共同研究に向けた情報交換とプロジェクトの検討	共同研究の申請	共同研究の開始	共同研究の展開	情報共有の継続	資料のやりとりなどを進める予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大のため困難となった。	60%	可能な形で、引き続き情報共有を継続する。	—			
			協賛連携機関との共同研究②東アジアにおける琵琶湖淀川水系	水生生物研究所・湖南省博物館(中国)、洛東江生物資源館(韓国)との連携	洛東江生物資源館との合同セミナーの実施	洛東江生物資源館との協力協定締結、研究情報の交換・資料交換等の検討	研究情報や資料交換実施	日中韓の研究成果の発表交流	研究成果の展示の検討	情報共有の継続	資料のやりとりや合同セミナーの実施を進める予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大のため困難となった。	60%	出版物の交換など、引き続き可能な形で情報共有を継続する。	—			
			「木から森へ」の博物館学の追求	博物館機能を活用した博物館学研究的の推進	博物館学研究領域を中心とした方法の開発	領域会議での検討	具体的な研究計画の検討	共同研究の申請	共同研究の開始	具体的な共同研究の可能性を検討	個々の学芸員の研究テーマが異なり、共同研究としてまとめることが難しい。	30%	個人研究を発展させて共同研究への発展を試みる。	—			
	研究成果の発信力強化	一般向けへの発信	インターネットでの発信	研究成果に基づく情報ページを開設	コンテンツ構成案を作成	コンテンツ作成	ページ作成と公開	英語サイトを含む学芸員紹介ページの更新	上半期はリニューアルとコロナ対策で研究発信が滞ったため、下半期に作成と公開を進める。	50%	ページとコンテンツの作成と公開。	—					
			刊行物による発信	『琵琶湖博物館』を冠にした一般書籍の発行	出版準備(契約等)と1~3巻刊行	4~6巻刊行と講演会の開催	年2~3巻の刊行	年2~3巻の刊行	子ども向けの読み物を検討	ブックレットの刊行を継続	ブックレット12巻を編集集中。年内に刊行予定。	25%	編集中の巻の刊行と、次号の編集。	—			